

国語科学習指導案

平成30年10月16日

1 単元名 「本を紹介して相手に興味をもってもらおう。」～推薦文を書く活動を通して～

2 単元の見目

【知識及び技能】

- 自分の書いた言葉が相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。

(1) ア

【思考・判断・表現】

- 表現の効果を考へて、自分の考へが伝わる文章になるように工夫することができる。

B書くこと (1) ウ

3 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・自分の書いた推薦文が相手に働きかけ、行動を促す働きがあることに気づいている。	・自分の思いが伝わる文章になるよう、表現の効果や記述の仕方を工夫している。	・自分の考へを伝えられるような推薦文の表現の工夫を考へている。 ・選んだ本の推薦文を進んで書いている。

4 単元について

(1) 単元で扱う言語活動

今回は、自分のおすすめしたい本の推薦文を書くことを本単元の言語活動に設定した。推薦文を書く活動をすることで、今まで行ってきた感想文を書く等の自分の中で完結する書く活動から相手意識（読み手意識）をもった書く活動ができるようになることを目標として行う。

本を誰かに「推薦」するためには、推薦する事柄について理解し、その良さを相手にわかりやすく伝える力が求められる。そこで推薦文を書く学習を通して、伝えたい相手にとって価値ある内容を選び出し、その効果を考へて相手に分かるように文章を構成し、伝える力を育てたい。また、作成した推薦文を読み合い、文章の書き方の良さなどについて交流する中で、より相手意識をもち、書く活動ができるようにしたい。

本単元は自分が思う本の良さを相手に伝え、「読んでみたい」と思わせることを目標として文章を書くようにする。そこでまずは、推薦文とはどのような文章なのかを捉えさせる。推薦文の特徴をはっきりとさせるために、様々な「推薦文」を読み、どのような推薦文が推薦されている本を読み

たい！と思わせるのか考えさせる。様々な書かれ方の推薦文のモデル文を提示しその構成等を考えさせることで、具体的にどのような文章を書けばよいのか、学習の見通しをもつことができ、この単元で学習する内容も明確になるのではないかと考えた。推薦文は、普段書いている感想文とは違い読む相手が明確にあり、その読み手に対して自分の思いだけではなく、その本の良い点、興味深い点を記述する必要がある。また、その本を読みたくなるような言葉や文章表現を記述し読みたいと思わせる必要もある。この2点が内容面では特に必要になってくるのではないかと考える。さらに形式的なものとしても読み手がいることを意識した文体や形式で書くことが大切になるだろう。この活動を通して、同じ本を読んで書かれた文章であっても、相手意識をもって書くと表現の様式や形態が変わることを理解することと生徒が推薦文を書くときに参考になる要素を引き出したい。推薦文の書き方を自分で考えることで、より書く力の定着を目指すことができるだろう。

その後、まずは練習として全員で同じ教材文で推薦文を書く練習を行う。本校の生徒にとって書き方を学んだからといってはじめから長い文章を書くのは難しい。そこで今回はある程度の形式を指定して指導に当たる。生徒が見つけた要素からうまく指定したいが今回の構成要素の指定はおおまかに以下のようにする。

本単元における「推薦文」の構成要素

1段落目

- ・読み手を引きつける文章
- ・筆者の主張

2段落目

- ・その本の良いところや興味深い点

3段落目

- ・この本をすすめる思い
- ・どんな人にすすめたいか

各段落の中身については、推薦文に入れたい情報を付箋を用いて書き集めさせる。色を分けて情報を整理することでまとめるときにより分かりやすく使えるようにしたい。(例：青→文章の中から引用する言葉や表現 黄→それに対する自分の考えや思い ピンク→付けたしたいことや修正点等)このように情報を集めた後に段落の内容ごとに自分で情報を取捨選択したり、並び替えたりすることで文章の構成を考えやすくし書くことに苦手意識をもつ生徒もスムーズに活動できると考えた。また、付箋紙は紙面の広さが限られているため自ずと言葉を選んで書くことにもつながる。さらに付箋紙は張り直し等も容易なことから、気軽に言葉を書き換えたり、文章の構成や表現を工夫したりしやすくなるだろう。また、実際に自分で書いてみて、他の推薦文と比べることでどのような推薦文が相手の興味・関心を引き付けるのか、表現の効果を考える機会としたい。そして、最後に今まで学んだことを生かし、効果的な表現や構成、内容を生かして実際に自分のおすすめする本の推薦文を書く学習を行う。読み合う活動をここでも取り入れ、さらに読み手がいる意識をもって書く活動を行う機会としたい。

また、推薦文の字数は400字～600字とする。内容は付箋を使って情報を集めてから書くことから書くのが苦手な生徒でもある程度長い内容を書きやすいのではないかと考えたからである。

相手意識をもった推薦文を書く学習することで、自分の考えた文章が相手の心を動かすことができるものであることを実感できるように指導していく。その際に、言葉や表現を工夫することでより相手に自分の考えを伝えることができると自信をもつことができるようにし、最終的には、普段の生活でも授業の中でも積極的に自分の伝えたいことを言葉で表現できる生徒の育成につなげていきたい。

(2) 単元で身に付けさせたい力

本単元は中学校第2学年の【思考力・判断力・表現力等】のB書くこと(1)ウの指導に当たる推薦文を書くという言語活動を通して、読み手を意識して、自分の考えが伝わるように表現や構成を工夫してねらいを持って文章を書く力を身に付けさせたい。そして、最終的には、自分の考えた推薦文が読み手の考えに影響を与え、自分の考えを伝えることで相手の心を動かすことができるということを実感させることを目標としたい。その結果、積極的に自分の伝えたいことを言葉で表現できる生徒の育成につなげていきたい。

(3) 基盤となる言語環境や継続的な取り組み

本校では基盤となる言語環境や継続的な取り組みとして、毎朝10分間の朝読書を行っている。本学年・学級では、授業の最初の10分間で帯学習として、週に一回程度、図書館指導員や教科担任が選んだ本の紹介を行っている。(小説の冒頭部分や盛り上がりのある部分を紹介し、感想等を書いている。)図書館指導員と連携して、図書室の利用の仕方の説明等を行い、授業等でも活用している。また、長期休業前の特別貸し出しなどは、学年全体で必ず利用し、本に触れる機会を多く設けている。その結果、本学年は一人ひとりの図書室の利用が非常に多くなっている。また、国語科の授業において、継続的にノートに自分の考えや意見を書く活動を行ってきており、次第に自分の意見を書いて表現しようとする姿勢が見られるようになってきた。また、日々の学習の中で、自分1人で学習を完結させるのではなく、他者との交流を通して、自分の考えを深めるため、自分の考えを表現し、共通点や相違点について再考する活動を行ってきた。

6 主体的・対話的で深い学びの視点

(1) 主体的な学びの視点

「主体的な学び」にするためには、生徒自身が取り組む活動に興味・関心をもつことと学習に見通しをもち、単元が終わった時に自分がどんな力を身に付けているのか、自分がどんな姿になっているのかを想像できるようにすることが大切であると考えた。これから取り組む活動に対し、興味・関心をもつためには、単元の明確なゴールが必要であると考えた。そこで今回は、単元の最後の目標を「自分のおすすめの本に興味をもってもらうために推薦文を書く」ことに設定した。自分がおすすめしたい本という自分の身近なものが教材となることで生徒は学習課題により興味・関心をもって学習に取り組むことができるだろうと考えた。さらに、書く活動でもただ漠然と書かせるという活動ではなく、「誰かにすすめる」という書く目的をはっきりさせて活動を行うことで、自分の行うことが明確に理解でき、主体的な学びにつながると考えた。また、推薦文の内容についても教師側が全て教え込むのではなく、モデル文から自分で

特徴を探したり、感想文との違いを考えることが自分の身につける力を考えることにもつながる。また、モデル文を提示することで、具体的にどのような文章を書けばよいのか学習の見通しももつことができるため、より主体的な学びができるだろうと考える。

(2) 対話的な学びの視点

自分のおすすめする本の推薦文を書くという活動の前段階として、全員が同じ文章を読んで推薦文を書く活動を行う。付箋に書いて集めた情報をもとに構成を考える活動とそれをもとに推薦文を書く活動を行う。その際に、付箋に書いた内容をもとにした構成をなぜそのように配置したのかやなぜその要素を取り入れたのか等の交流の場を設定する。また、完成した推薦文をお互い読み合い交流する活動を行う。

最終的な目標の自分のおすすめする本の推薦文ではそれぞれが別々の本を読むため、自分と他の人との違いを比較し、なぜそのように考えたのかを共有することは難しい。しかし、練習の段階で同じ文章で推薦文を書くという活動をすることで、なぜ他の人はそう考えたのかを知ることができる。また自分の考えを相手に説明する過程で自分の考えていない優れた表現や視点を知ることができ、自分の考えを広げたり深めたりできると考えた。

(3) 深い学びの視点

深い学びをするためには、まず基礎・基本の定着が重要であると考えた。そのため単元の中で学習したことはいつでも振り返ることができる環境を作ることが大切であると考えた。生徒が「推薦文」について考えた特徴や構成で大切なことは掲示物として授業中に常に見ることができるようにしておく。そうすることで、学んだことを習得し活用する環境を作り、深い学びにつなげたい。

次に、自分の思考の過程が分かるように付箋紙の利用を考えた。推薦文を書きやすくするための手立てでもあるが、色分けした付箋紙に言葉や表現、それに対する自分の考えを書くことは、自分の学びを整理していく上でも有効であり、学びを整理して活用していくことや、内容を吟味し、より深く学んでいくことにつながっていくと考える。

最後に、自分のおすすめする本の推薦文を書くにあたって、まず全員が同じ文章で推薦文を書く。それについて対話をし自分の考えを広げた上で、最後に自分のおすすめする本の推薦文を書くことは、それまでの学習内容を含め、最後に学んだことを活用する機会となるのでより深い学びにつながるのだろうと考えている。

7 単元の指導計画 (7時間)

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	<p>○学習の見直しをもつ 本を紹介して相手に興味をもって もらおう ～推薦文を書く活動を通して～ ○自分の読書経験を振り返る。</p> <p>○本を紹介する手立てはどんなものがあるか考える。 ○今回の本を紹介するツールは推薦文だということを知る。 ○紹介したい本を考える。</p>	<p>・これまでの読書経験を振り返らせる。 ・本を紹介する手立てを例示する。(帯やポップ、リーフレット等) ・今回の学習は「推薦文」を書くことを通して自分のおすすめの本を紹介することを確認する。 ◇友達に推薦したい本を選んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
2	<p>○「推薦文」のモデルから「推薦文」がどんな文章なのか考える。</p> <p>○どんな「推薦文」が読み手を引き付けるのか考える。</p> <p>○同じ本を読んで書かれた文章であっても、伝えたいことが違うと書き方が違うことを理解する。 ○推薦文のモデルをさらに詳しく読み、構成要素として、どのような内容が含まれているのかを見つける。 ○相手を意識した効果的な表現を探す。</p> <p>○推薦文を書く時の構成をつかむ。</p>	<p>・「推薦文」のモデル文を提示する。 ・推薦文の書き方の特徴をワークシートにまとめさせる。 ・生徒から出た特徴を黒板にまとめ、相互に比べさせる。 ・表現の様式の違いでの書き方の違いを説明する。 ◇表現の効果を考えてまとめている。(思考・判断・表現) ・推薦文のモデルの段落ごとに何が書かれているのか注目させる。 ・構成要素・内容を確認していく。 ・推薦文を書くときに入れる段落ごとの要素を確認する。</p> <p>◇自分の考えを伝えられるような推薦文の表現の工夫を考えている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
3 4	<p>○「少年の日の思い出」の推薦文を書く。(1年生が実際にその推薦文を読む。)</p> <p>○今まで学習した内容を活用する。</p> <p>○付箋を使い情報を集める。</p>	<p>・推薦文を書くために ①まず、文章を読んで自分の考えたことを書く。 ②使いたい言葉や表現を探し、抜き出す。→それに関しての自分の考えを書く。 ③集めたものをもとに、構成や描写を考え、推薦文を書く。 というプロセスを伝える。②③は付箋を活用する。</p>

	<p>○できた推薦文を1年生に実際に読んでもらい感想を聞く。</p> <p>○できた文章はお互いにも読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3段落の構成を伝える。 ・推薦文の字数は400字～600字であることを伝える。 ・実際に1年生が完成した推薦文を読んで、「少年の日の思い出」を読みたくなるように工夫させる。 ・完成した推薦文を読み合い、良い表現や構成を自分のワークシート等を書いてまとめさせる。 ・お互いに文章を読み合い、良いところを伝え合う。 <p>◇自分の考えを伝えられるような推薦文の表現の工夫を考えている。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>◇自分の思いが伝わる文章になるよう、表現の効果や記述の仕方を工夫している。(思考・判断・表現)</p>
5 6本時	<p>○前時までの方法と同様に付箋に情報を集める。</p> <p>○自分のおすすめする本の推薦文を書く。</p> <p>○読み手を意識した効果的な表現を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かして推薦文を書くことを伝える。 ・効果的な表現の仕方をまとめて提示する。 ・推薦文に使える言葉を具体的に示す。 ・作成した推薦文を読み合わせ、お互い評価しあう。 <p>◇自分の思いが伝わる文章になるよう、表現の効果や記述の仕方を工夫している。(思考・判断・表現)</p> <p>◇選んだ本の推薦文を進んで書いている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
7	<p>○作成した推薦文を読み合い、お互いの良いところを認め合う。</p> <p>○お互いに読み合い、どの本を読みたいか選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した推薦文を読み合わせ、お互い評価しあう。 <p>◇自分の書いた推薦文が相手に働きかけ、行動を促す働きがあることに気づいている。(知識・技能)</p>

8 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・表現の効果を考え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

(思考・判断・表現)

- ・自分の考えを伝えられるような推薦文の表現の工夫を考えている。

(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本時の展開

時配	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
7	<p>○本時の学習の見通しをもつ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分の考えが伝わるように表現や効果を工夫して書こう！ </div> <p>○今まで学習したことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦文の構成要素 1 段落目 <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手を引きつける文章 ・ 筆者の主張 2 段落目 <ul style="list-style-type: none"> ・ その本の良いところや興味深い点 3 段落目 <ul style="list-style-type: none"> ・ この本をすすめる思い ・ どんな人にすすめたいか ・ 効果的な表現の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・ なるべく短い文章 ・ 体言止め等の表現の技法 ・ 読者の興味を引く文末表現 等 ・ 推薦文に使える言葉集 	<p>○あらかじめ掲示するものを作り、ホワイトボードに貼る。</p> <p>◎掲示物の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 付箋の使い方 ・ 推薦文の構成要素 <p>◎プリント配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な表現の仕方 ・ 推薦文に使える言葉 等 <p>※基本的に授業で生徒が出たものをまとめる。</p> <p>○読み手を意識した時に「どんな人」に薦めたいのかが大切になることを伝える。</p>
38	<p>○自分の集めた要素を書いた付箋紙を使い構成等を考えながら読み手を意識した推薦文を書く。</p> <p>※前時で情報を集めきれない生徒は、付箋を使い、推薦文の内容を集める。</p> <p>○段落ごとに付箋で内容を集める。</p> <p>◎付箋紙の内容</p> <p>ピンク→文章の中から引用する文章や表現</p> <p>青 →ピンクの付箋に対する自分の考えや意見</p> <p>黄 →付けたしたいことや修正点</p>	<p>○付箋紙の構成等に悩んでいる生徒がいれば、アドバイス等を与える。</p> <p>○付箋紙の情報を集めている生徒に声をかけどういう情報が必要なのかはっきりとさせる。</p> <p>○段落ごとに付箋で分けて書く内容を考えることで長い文章でも書きやすくなるようにする。</p> <p>○読み手を意識した推薦文になるように声かけをする。意識できていない生徒にはどのように書いたら読み手がその本を読みたくなるのかを前時までの授業を振り返りながら考えさせる。</p> <p>○付箋紙を上手く使い構成を考えさせる。</p> <p>◇自分の思いが伝わる文章になるよう、表現の効果や記述の仕方を工夫している。(観察・ワークシート・推薦文)</p> <p>◇選んだ本の推薦文を進んで書いている。(観察)</p>
5	○学習の振り返りを行う。	○相手意識をもって推薦文を考えられたか確認する。